

パラウェブ・マット 仮設道路テスト報告

日時：1996年2月14日

場所：建設機械化研究所

地盤：関東ローム 2m～6m地点の水分率が高い土質（水分率95%）

テストの手順

- 1：マットを敷かないで走行路面を確認
- 2：マットを敷いて走行路面を確認



積載量10トン、車体総重量20トンのダンプが6回走行後の路面



積載量 10 トン、車体総重量 20 トンのダンプが 12 回走行後の路面水分率の高い 2 m ~ 6 m 地点が一番轍が高くなっている。



積載量 10 トン、車体総重量 20 トンのダンプが 12 回目で走行不能となる



土質の変化を入念に
チェック



積載量10トン、車体総重量20トンのダンプが12回走行後の路面

パラウェヴ・マットの敷設

地盤の整地

マットなしでの走行テスト後の路面であり、路面条件はマットなしで走行テストの路面より過酷である



テラムを敷設

4.5m幅の不織布

水分率がもっと高い、又は雨が降っている場合など、泥がマットの上に上がってこないよう、フィルター役目をする



パラウェヴ・マットの敷設

4.4m X 16m



パラウェブ・マットの両端を特殊ゴムで2m～4mピッチで引っ張り

車体走行時にマットがずれないように



非常にスムーズに走行



積載量10トン、車体総重量20トンのダンプが6回走行後の路面

14回走行後に牽引によるタイヤと路面の抵抗値を計測、このデータもマットなしに比べ非常に良い数値を得た





積載量10トン、車体総重量20トンのダンプが14回走行後の路面

14回の走行で当日のテストは終了し、翌日のテストには、残念なことに立ち合うことができなかった。

後日の建設機械化研究所の報告では32回走行したが、問題なくテストを打ち切ったとの事で非常に高い評価を頂いた。

このテストは災害時、重量車輛が走行する為の仮設道路のテストであり、建設省が機械化研究所に依頼したものである。